

公募制自己推薦入試 過去問題 2024

経営学部

国際経営学科

※問題は2024年度入試のものです。

【事前課題】 経営学部 国際経営学科

プログラム部門〈マネジメント体験プログラム〉課題：

出願者の経験や実績等に関する成果レポート

字数：2,000 字程度（図表等は文字に含めない）

【小論文】

経営学部 国際経営学科

[試験時間 90分]

問題 1

アダム・スミスの「見えざる手」について記事を参考に100字以内で説明しなさい。

問題 2

「利益を優先し、不正に手を染める企業への戒めとして、いまも通用する一節であろう」という部分に関連して、日本で起こった企業の不正事件について具体的な事例を挙げ、どのような不正事件だったのか、またどのようにすれば不正事件を防ぐことが出来たのか、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

問題 3

記事中の「資本家層がフェアに競争することにより、労働者に雇用という恩恵が及ぶ。」とは、どのような状態なのか、現在の社会に当てはめて、あなたの考えを200字以内で述べなさい。

【小論文】

経営学部 国際経営学科

【試験時間 90分】

「アダム・スミス」(1772年)
90」といって「経済学の父」であ...

スミスが読んでいたであろう蔵書の一部が、東京大学の一室で保...

公平あつての「見えざる手」

アダム・スミス

国富論(1776年)

この部分は著作権の都合上、掲載できません。

山岡洋一訳『日経ビジネス文庫』



スミスの生涯

Table with 2 columns: Year and Event. Includes dates from 1723 to 1790.

【利己心の肯定にとどまらない】「国富論」の世界とは

- 欧州各国がアメリカ大陸を植民地化したことについて、「悪かさ」として批判
● 少数の個人による自由な行動が社会全体を危険にさらす場合には、自由を制限を加えるべきだと主張



山岡洋一訳のほか、岩波文庫の水田洋監訳・杉山忠平訳、中公文庫の大河内一男監訳など多数の訳書がある。

18世紀に勃興し、いまに続く資本主義経済。その正体とは何ぞうとしたらいいか。草創期に抜擢したのがスミスであり、その足跡が著作に残されている。

スミスが大学で教えていたのは「道徳感情論」...

「国富論」には、労働者に高い賃金を払うべきだと論じている箇所もある。

「見えざる手」の概念は、市場は一定の条件があつてはじめてうまく機能する。

「国富論」には、労働者に高い賃金を払うべきだと論じている箇所もある。

「見えざる手」の概念は、市場は一定の条件があつてはじめてうまく機能する。

「国富論」には、労働者に高い賃金を払うべきだと論じている箇所もある。

「見えざる手」の概念は、市場は一定の条件があつてはじめてうまく機能する。

「国富論」には、労働者に高い賃金を払うべきだと論じている箇所もある。

(出典：朝日新聞「明日へのLesson」第1週：ブック 公平あつての「見えざる手」『国富論』2023年8月3日(朝刊)P.23)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。承諾番号(23-3404)